
龍の息子の放浪記

初心者の奴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

龍の息子の放浪記

【Nコード】

N3818BA

【作者名】

初心者 of 奴

【あらすじ】

龍神によって作られた主人公

素質はあっても経験が足りないということ

次期龍神を目指すため異世界へ行き 何かを学ぶ

第一話 異世界に降りる（前書き）

これは、『上海アリス幻樂團』様による東方Projectシリーズの二次創作・幻想入り物です

原作無視などの可能性が無いとは限りませんので

それなどが不快に感じる方は戻っていただくのがいいかと
では どうぞ

第一話 異世界に降りる

「で、話ってなんだよ親父」

「まあそう急かすな 今話す」

「はいはい・・・」

今俺は親父 もとい神様 いや龍神か？まあ最高神に呼び出された呼び出すというより 連れてくるのほうに合っている気がするが
ま、そうでもないし他の奴と話す事ができないのだが

ココはなにかと不思議空間で 上下左右真っ白

他の奴と話したいならば ソイツの所に行くか 連れてくるかの2択なのだ

普通に歩いてたら 絶対に見つからないし
というか上下左右真っ白な事から考えると 歩いているのが怪しい慣れてしまったが

「ワシがお前を作り出した理由は分かっているな？」

「ああ、簡単に言っと次期龍神候補みたいなもんだろ」

「まあ そういう事だ」

親父は龍神というだけあって でかい まずでかい

鱗一枚が俺と同じ大きさだし まっ 眩しっ 輝いてやがる 流石

龍神

ちなみに親父は口で喋っていない 念話とでもいうのか テレパシ
ーとかそんなモノらしい

俺は口だぞ？ 人型だから

「その事なんだが・・・」

「・・・？」

「お前には素質がある　しかし経験が足りない」

なんか　うつ　ときた

面と向かって言われるとキツイかもしれん

「経験・・・というと？」

と　聞き返す

「お前は他者との触れ合いをしていないからなワシ以外と
まあ他にもいろいろあるがな」

「で？　どうしろと？」

「最近新しくできた異世界があつてな
そこにお前を送り込もうと思う」

「へえ・・・」

「しかしちよつと問題があつてな」

「ん？」

「その世界はいろいろと危険だ」

「え？」

ふう　と親父は息をはくと

「まあ　そんな危険な所にお前を投げ込むっていうワケには
いかなので　能力を付与させてもらう
あと武器も渡しておこう」

「あ・・・ああ　助かる」

危険な世界に丸腰で行くのは嫌だしな・・・

「ああ　ちなみにもう能力の付与は終わったぞ」

早ッ いつの間に・・・

「あとコレだ」

スッ と 剣が俺の前に現れる

「触っていいか？」

「ああ お前に渡すつもりだしな」

と 剣を持つてみる

「軽い・・・？」

軽いのだ 異常なほど

「それはな お前が人間状態の時に与えられる力を吸うと
鋭さや重さや強度が変わるんだ」

「・・・ん？ 人間状態って 今の俺以外にもなんか変わったりする
のか？」

ああ そうだった と親父はため息交じりで言う

「今のお前は人間状態 そしてもう一つの状態が龍化 まあ龍化と
いっても
尻尾が生える程度だ といっても人間状態時に使う力と龍化時に使
う力は別物だな」

なんじゃそりゃ 初耳だぞ

「まあ すぐなれるだろ 尻尾が生える想像でもしてみろ」

「いやな想像だなソレ・・・」

と まあ軽く想像してみると

「うつ・・・？」

シュルツ と

一本の細長く 先っぽがものすごく鋭い尻尾がでてきた

その瞬間、剣の重さが変わる

「なるほど・・・ 確かに違う感じた」

「軽く説明をしておこう」

いきなり親父が喋り始める

「人間は一般的に霊力と呼ばれるモノが使われる

お前が人間状態時ならば霊力を使える

その剣に吸われた力はおそらく霊力だろう

そしてもう一つ その龍化時なら神力というモノが使える

正直言つてこの神力を使うには色々と面倒なものがあるんだが

お前は例外だ 生物が普通に生きているだけで お前に神力が入ってくる」

「ちょっと待て 神力ってのは他の奴から貰うモノなのか？」

「えーとな・・・ 他の世界から見ると限り 信仰というものが多ければ多いほど

その神の持つ力は強いんだ」

「けど俺は生物が生きてるだけでその力を貰えると なんて？」

率直な疑問を聞くと

「そりゃ ワシがこの世界全部作ったから」

親父は規格外だった

「あとコレ持つて行け」

上からヒューー と長方形の箱が落ちてくる

「おっ・・・と」

パシッ と受け取る

その箱を開けてみると

「これって・・・葉巻？」

「そうだ葉巻だ」

別世界で見た事がある

火付けて吸う奴だ

「ちなみにこの葉巻は特別製でな・・・

有害分をすべて取り除き

少し使っただけで落ち着けるといふ優れものだ！」

良く分からんが 素晴らしいようだ

「そついや思っただけだ なんで俺って人型なんだ？」

「葉巻はスルーか・・・ まあ人型なら応用が効くかと思ってな 不満か？」

「いや 大丈夫だ もう慣れたし 今更変えたってな・・・」

「今更？ お前 いくつになる？」

「地球にいと仮定したら えーと・・・ 軽く9846歳くらいだ ったかな」

「なんだ もうすぐで一万じゃないか」

「だなあ」

今思つと この真つ白な空間でよくそんだけの時間生きてきたものだ

「それじゃ そろそろ送るぞ 剣はいいか？葉巻はいいか？」

「まあ 大丈夫だ」

「では 送るぞ」

すると親父は黙り込む

10秒後、俺を囲うように文字が現れる

「では 送るぞ 幸運を祈る」

「ああ んじゃ行ってくる」

親父に向かって軽く手を振る

瞬きすると もう親父は目の前にいなかった

「ん・・・」

目を開けると 別世界

湖があり 森があり 地面があり 空がある

腰の剣 葉巻をチェックすると

「よし 行くか」

俺は 新しい世界への第一歩を踏み出した

第一話 異世界に降りる（後書き）

原作キャラでてません すみません
意見 感想 指摘 待っています
では

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3818ba/>

龍の息子の放浪記

2012年1月9日22時46分発行